

長野便教会 会報

ひとつ拾えば ひとつだけきれいになる

平成30年8月11日(土) 第92号

1 11年目の夏、新たな一步を踏み出そう

今年で11回目を迎える「長野県中学校清掃サミット」。今年の会場校は、長野市立篠ノ井東中学校でした。そもそも、第1回の清掃サミットは篠ノ井東中学校を会場に計画していたのですが、諸般の事情で、同じ長野市内の豊野中学校での開催となりました。それが、10年遅れになりましたが、1周まわった1回目を開催させていただけたことは…。不思議なご縁・巡り合わせです。「トイレの神様」のあまりにも粋な采配に、ただただ感謝です。

毎年お世話になっています小布施掃除に学ぶ会・セイコーエプソン労働組合の皆さまはもちろんですが、今年も山形・千葉・山梨・滋賀・大阪から、暑さにも台風にも負けずに遠路駆けつけていただき、お力添えをいただきました。皆さまのおかげで、今年も大きな実りのある会になりました。本当にありがとうございました。

清掃サミットに参加して感じたこと 長野市立篠ノ井西中学校教諭・太子 奈奈

昨年のことです。夏休みの職員研修があり、そこで栗林秀夫(元・篠ノ井東中学校長)先生に掃除についてご講演いただいた際に、掃除について勉強する会があることを知りました。スポンジを使って素手で便器を磨くその写真を見たとき、一体どんな指導をしたのだろうか、これはきっと掃除の勉強会と関係があるのではないかと思いを巡らせていました。しかしその会は当時の私には縁がなく、遠い存在のように思っていました。

それから半年たった4月。教員人生で初めて清掃主任を任せられることになった私は、掃除のことが急に身近な課題になりました。そんな時、「長野県中学校清掃サミット」の開催案内が手元に届いたのです。太田先生の気持ちのこもった冒頭の文章や、ベニヤが光ったS中学校の話(S中学校は校舎の写真や内容から私の前任校の事だと気づきました)、これらが栗林先生の講演とつながった私は、何か運命のようなものを感じ、思い切って申し込むことにしたのです。心配されていた台風もすっかり進路が外れ、連日の暑さも和らいで過ごしやすい絶好の日となっていました。それでも、受付に行くともうすっかり汗びっしょりになって準備をしてくださっている実行委員の皆さんのお姿に気持ち良く迎えていただきました。

実際のお掃除では、私は手洗いのシンク磨きを担当しました。リーダーの鈴木さんのおっしゃった、「落としやすいのは人間がつけた汚れで、落としにくいのは水アカなどの汚れです」という言葉通り、水アカがなかなかとれない状況でした。うまく磨けないでいると鈴木さんがきて、となりのシンクを磨いて見せてくださいました。すると、私なりに磨いたシンクはまだまだ水アカが残っているのに、鈴木さんのシンクは水アカ1つなくピカピカでした。磨き方が全然違うのだと気づき、私はまだまだなのだと気づかされました。もっと力をこめて磨き込もうと思った矢先に、時間切れになってしまいました。「もっと磨きたい」「もっときれいにしたい」そんな思いが自然とわいてきました。どんな汚れも頑張れば落とすことができる。その現実を見せていただいたからこそ、意欲がわいてきたのだと思いました。誰に褒めてもらえるでもなく、できなくて叱られるでもなく、汚れが落ちたか落ちてないかが意欲を支配する。そんな境地を経験することができました。リーダーの鈴木さんからは掃除のノウハウだけでなく、掃除を通して得られる心の部分についてもたっぷりお話をいただき、きれいにすることだけでなく相手を思って動くことで自分の心が磨かれることが大事であることを教わりました。

生徒や私たちが無心になって磨くことができたのは、掃除のやり方を教えてくださる方々と、道具や環境を準備してくださった方々のおかげです。学校の掃除でも、こうした準備なくして



篠ノ井東小学校6年生が1年先取りで参加。今年も110名超える皆さんのお掃除後の笑顔。

は良い掃除などできません。まずは人と環境を整えることから始めようと思います。今後ともお知恵をお貸しいただければ幸いです。清掃サミット実行委員会の皆さんをはじめ、サミット開催に関わったすべて皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

清掃サミットは、各校で委員長・副委員長として頑張っている生徒の皆さんの方になりたいと思って始めたことですが、悩んだり、苦しんだりしているのは生徒だけではありません。先生方も「初めて清掃主任になったけど、どうすればいいの?」という先生方が少なからずおいでだと思います。私たち長野便教会は、そんな先生方も応援していきます。ご連絡ください。

長野の地で決意したこと 山形市立山寺中学校教諭(山形便教会代表)・山口 俊一

2018年7月29日、私にとって生涯忘れられない一日となった。

「黙想にどんな意味があるのか?」そんな思いで資料をめくっていた前日までの自分。そんな自分の考えを180度変えてくれたのは長野県の中学生の活発に議論する姿だった。中学生が、掃除の困り感について話し合う光景は見たことがある。また、どんな方法だと全校生徒が掃除に一生懸命取り組んでくれるか、という方法についての情報交換も見たことがある。しかし、私が見た光景は、これまでの光景とは全く違っていた。

「中学生が、清掃の価値について意見を交換する、そして、大人の心を動かす」そんな光景だった。清掃サミット参加以後、私の清掃の仕方は変わった。清掃前の黙想の価値について意見を交わす。教師になって以来、初めて目にする光景だった。

長野から戻ってきてから、私の中で変化してきたことがある。それは何か。「掃除前、部活動前に、短くても良いから、これからやろうとしていることを黙想でイメージすること」である。今までの掃除や部活動と全く違う世界が広がっていく。

自分が思い描いた「小さな未来」を「自分の意志と行動」によって実現していく。このプロセスは実に心地良い。この心地良さを、私は、長野清掃サミットで得た。部活動の練習も変わりつつある。自らの意志で未来を切り拓く活動へ、と。

さて、水こし磨きをしていると、本当に、この汚れは落ちるのだろうか?と少し弱気になる時がある。しかし、一ヵ所がきれいになるとそれまでの頑固な汚れが嘘のようにきれいになっていく。そして、最後にはピカピカに。これは、物事への挑戦とよく似ている。最初は無理だと思うようなことも、一点突破すれば、そこから未来が広がっていく。ただ、トイレ掃除にも時間制限が設けられているのと同じように、私たちの挑戦にも時間が限られている。

今回、清掃サミットに参加し、山形でも「清掃サミットを実現したい!」と感じた。しかし、同時にほど遠い道のりに思えた。けれども、今回の水こし磨きと同じで、必ず動き出す時がくると信じられるようになった。遠い道のりではあるが、長野県と山形県で中学生による清掃サミットが開催されるよう、挑戦し続けていきたい。そして、教師としての時間を終えるまでに、山形での清掃サミットを実現したい。

参加校の皆さんとの本気で語り合う姿が、山口先生を動かしました。「山形清掃サミット」の実現に向けて、私たちも応援していきたいと思います。今年の清掃サミットは終わりましたが、ここがゴールではなく、スタートです!昨年の篠ノ井東中も、清掃サミット後に「みがき隊」の活動を始めました。今年も「○○中の取り組みを参考に、自分たちの学校でも取り組んでみたい」という感想発表が複数の学校からありましたが、2学期に入ったらぜひ実行してみてくださいね。その成果をまたご連絡いただければうれしいです。よろしくお願ひします。

2 お知らせ

○小布施掃除に学ぶ会・月例会→毎月第2土曜朝6時~8時30分(5:45にはご集合ください)

○第2回上田二中掃除に学ぶ会→9月(期日未定。決まり次第お知らせします)上田市立第二中学校

○第3回筑摩野中掃除に学ぶ会→10月(期日未定。決まり次第お知らせします)松本市立筑摩野中学校

これだけの成果を得られたのも、篠ノ井東中学校の大日方貞一校長先生をはじめ、山下由紀子教頭先生、清掃担当の松島好美先生の他、前日準備からお手伝いいただいた先生方や生徒の皆さんのご理解・ご協力のおかげです。栗林秀夫元校長先生や故・丸山和義先生にも報告します。本当にありがとうございました。

〒383-0021 中野市西2-9-2 長野便教会事務局・太田 智明(山ノ内町立南小学校教諭)

携帯電話・090-2238-2934 Eメール・otato2005@yahoo.co.jp

小布施掃除に学ぶ会HP・<http://obuse-souji.com/>